

2007年2月の東北地方の天候

【2月の特徴】

- ・ 記録的な高温、少雪
- ・ 記録的な東北日本海側の多照

（1）2007年2月の概況

この期間、高気圧と低気圧が数日の周期で交互に通過し、冬型の気圧配置は長続きしなかった。また、移動性高気圧に覆われる日も多く、低気圧の通過後も強い寒気の南下はほとんどなかった。このため、東北地方では記録的な高温、少雪、東北日本海側では記録的な多照となった。特に下旬は東北日本海側でも晴れの日が多く、降雪量が極端に少なかった。

東北地方の地域平均気温は1946年以降で2位タイ、東北地方の地域平均降雪量は1961年以降で2月の極値を更新、東北日本海側の地域平均月間日照時間は1961年以降で2月の極値を更新した。

月平均気温は東北地方でかなり高い。月降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。月間日照時間は、東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。月降雪量平年比は東北地方で21%とかなり少ない。

（2）各旬の天候経過

上旬：4日までは冬型の気圧配置や気圧の谷の通過で、東北日本海側では曇りや雪の日が続き、大雪となるところもあった。その後は冬型の気圧配置は続かず、東北日本海側でも高気圧に覆われ晴れる日もあった。東北太平洋側では、期間を通して晴れの日が多かった。強い寒気の南下はなく、気温の高い日が多かった。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並、日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。降雪量平年比は東北地方で28%とかなり少ない。

中旬：冬型の気圧配置は続かず、東北地方の天気は数日の周期で変化した。14日は日本海を低気圧が発達しながら通過したため、雨や雪となり、八甲田山ではなだれにより犠牲者がでた。15日は一時的に冬型の気圧配置が強まり、大雪や暴風雪、高波となった。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北地方で多い。日照時間は東北北部で平年並。東北南部で多い。降雪量平年比は東北地方で29%とかなり少ない。

下旬：冬型の気圧配置となる日が少なく、東北地方の天気は数日の周期で変化した。移動性高気圧に覆われる日も多かった。このため、東北地方の日照時間はかなり多く、東北日本海側の降雪量は極端に少なかった。23日は東北地方を前線が通過したため多くの地域で天候がぐずついた。

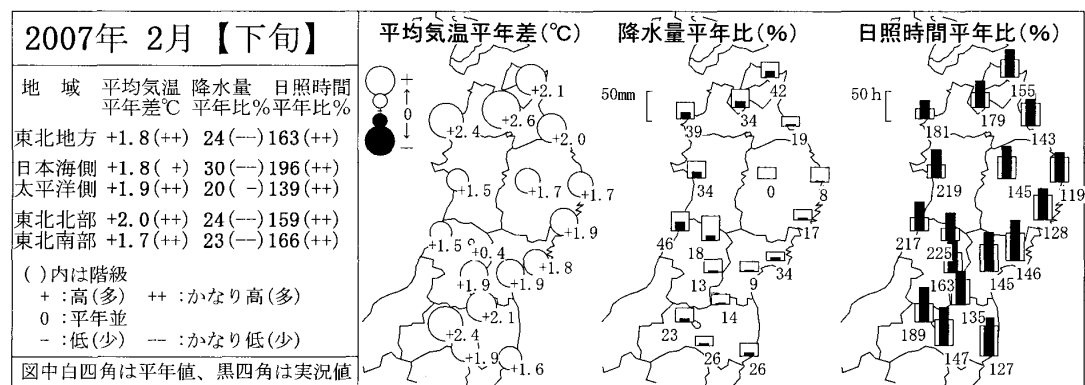
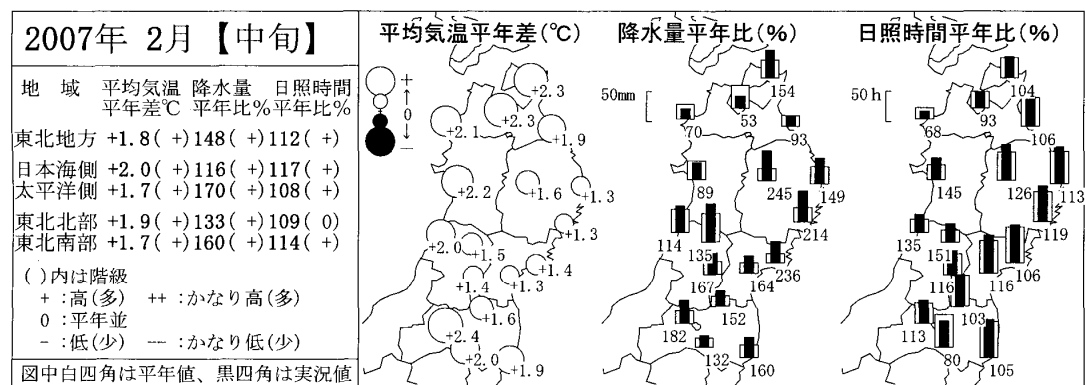
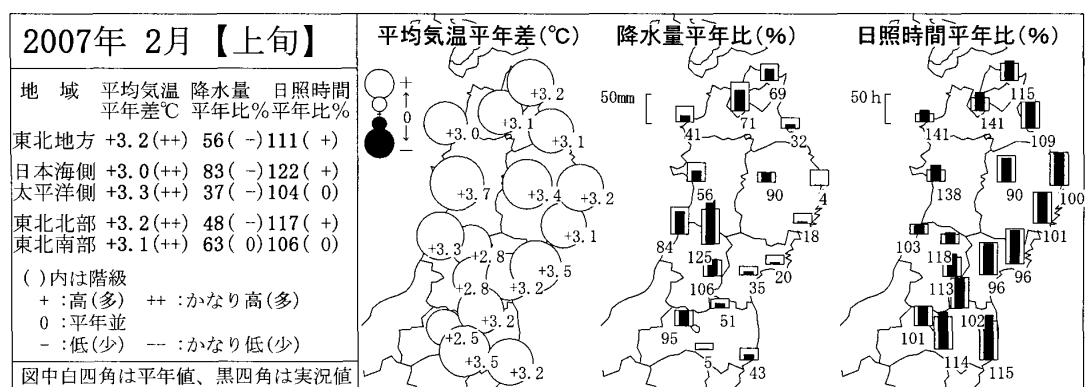
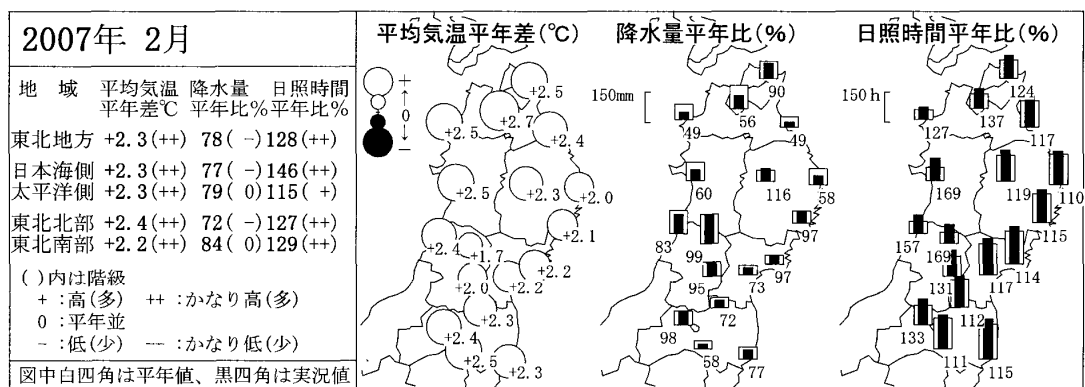
平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側でかなり高い。降水量は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北地方でかなり多い。降雪量平年比は東北地方で1%とかなり少ない。

注）気候統計値は、東北地方にある17地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2007年2月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

注1) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2007 年 2 月の月気候表

地 点 名		平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)		階級	降雪深さ(平年値)		階級	最深積雪(平年値)		階級
		(℃)	(℃)		(mm)	(%)			(h)	(%)		(cm)	(cm)		(cm)	(cm)	
青 森 深 浦 む っ 八 戸	森	1.6	(+2.7)	++	64.5	(56)	—	13	99.6	(137)	++	55	(205)	—*	37	(111)	—*
	浦	2.3	(+2.5)	++	38.0	(49)	—	9	62.2	(127)	+	20	(114)	—*	10	(42)	—*
	っ	1.0	(+2.5)	++	76.0	(90)	○	10	113.9	(124)	+	28	(160)	—*	16	(66)	—*
	戸	1.5	(+2.4)	++	26.0	(49)	—	6	154.7	(117)	++	11	(103)	—*	4	(28)	—*
秋 田		2.7	(+2.5)	++	55.0	(60)	—*	10	111.1	(169)	++	9	(120)	—*	2	(37)	—*
盛 岡 大 船 渡 宮 古	岡	0.7	(+2.3)	++	63.5	(116)	+	5	154.0	(119)	+	72	(98)	—	30	(33)	○
	船	3.0	(+2.1)	++	56.0	(96)	○	4	163.3	(115)	+	—	(27)	—*	—	(9)	—*
	渡	2.3	(+2.0)	++	46.0	(58)	—	3	166.4	(110)	+	4	(72)	—*	2	(29)	—*
仙 台 石 巻	台	3.9	(+2.2)	++	35.5	(73)	○	6	178.4	(117)	++	4	(31)	—*	4	(13)	—
	巻	3.1	(+2.2)	++	43.0	(97)	○	6	185.0	(114)	+	1	(24)	—*	1	(13)	—*
山 形 新 庄 酒 田	形	1.8	(+2.0)	++	66.5	(95)	○	10	130.4	(131)	++	56	(147)	—*	18	(46)	—*
	庄	0.7	(+1.7)	+	143.5	(99)	○	15	95.3	(169)	++	96	(242)	—*	47	(123)	—*
	田	3.8	(+2.4)	++	96.0	(83)	—	15	94.3	(157)	++	17	(119)	—*	3	(30)	—*
福 島 若 松 白 河 小 名 浜	島	4.1	(+2.3)	++	36.0	(72)	○	6	161.6	(112)	+	25	(73)	—*	7	(18)	—*
	松	2.0	(+2.4)	++	68.5	(98)	○	12	129.5	(133)	++	75	(160)	—*	30	(46)	—
	河	3.0	(+2.5)	++	24.0	(58)	○	3	168.8	(111)	+	2	(51)	—*	1	(14)	—*
	浜	6.0	(+2.3)	++	47.5	(77)	○	6	201.4	(115)	++	0	(7)	—	—	(4)	—*

(注) 1. 平年値は1971～2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+: 高い (多い) ○: 平年並 -: 低い (少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる (各階級が10個ずつになる) ように決めた。

また、値が1971～2000年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を付加した。この場合にはかなり高い (多い) かなり低い (少ない)

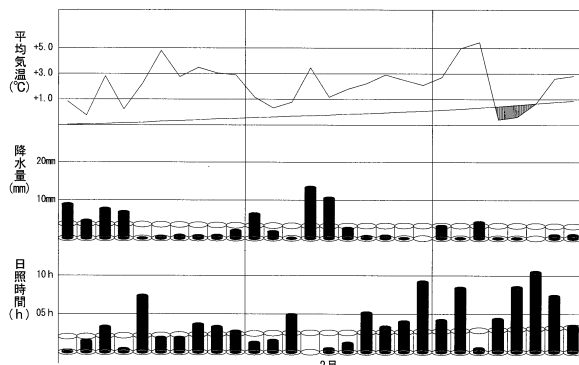
と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

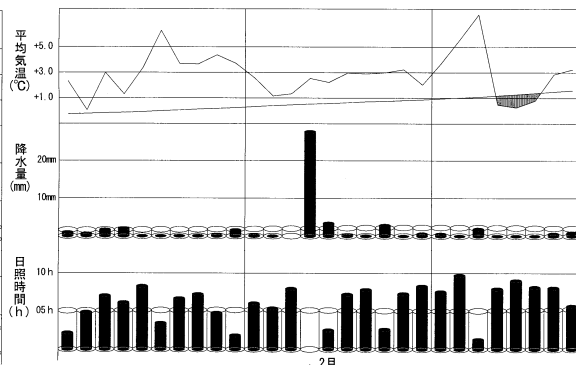
3. 値の横に「) や]」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ (日別値) に欠測等が含まれていることを示す。
) 付きの値 (準完全値) は通常のものと同様に扱うことができるが] 付きの値 (資料不足値) については、値の下に記載した統計日数 (統計に用いた、品質が十分な日別値の数) を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2007 年 2 月の日別経過図



東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均 (気温: 実線と点線、降水量・日照時間: 黒い円柱と白抜き円柱)

(6) 2007 年 2 月の極値・順位の更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間の 3 位まで。)

月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃ (西暦年)	開始年	平年値 ℃
1	青森	1.6	+2.7	1.5 (1990)	1886	-1.1
2	八戸	1.5	+2.4	2.0 (1990)	1937	-0.9
	秋田	2.7	+2.5	3.0 (1990)	1886	0.2
	酒田	3.8	+2.4	4.0 (1990)	1937	1.4
	小名浜	6.0	+2.3	6.1 (1990)	1911	3.7
3	大船渡	3.0	+2.1	3.3 (1990)	1964	0.9
	新庄	0.7 =	+1.7	1.4 (1990)	1958	-1.0
	深浦	2.3	+2.5	2.4 (1990)	1940	-0.2
	むつ	1.0	+2.5	1.3 (1990)	1935	-1.5
	盛岡	0.7 =	+2.3	1.2 (1949)	1924	-1.6
	仙台	3.9	+2.2	4.3 (1990)	1927	1.7
	福島	4.1 =	+2.3	4.4 (1990)	1890	1.8

月間日照時間多い方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	新庄	95.3	169	87.1 (1995)	1958	56.3
	若松	129.5	133	127.0 (1960)	1954	97.3
	秋田	111.1	169	101.7 (1998)	1900	65.6
	酒田	94.3	157	91.1 (1998)	1937	60.0
2	仙台	178.4	117	182.5 (1984)	1927	151.9
3	山形	130.4	131	133.1 (1984)	1895	99.3

(注) 順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

値の横に] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等、統計に用いなかった値が含まれている(資料不足値)。順位は更新順位以上になることは確実であるが、統計値の使用に際しては気候表に記載した統計日数を参照されたい。

平年値とは 1971～2000 年の 30 年間の値を平均したものである。

(7) 降雪の深さの最少値・月最深積雪の最小値の更新

降雪の深さの月合計値少ない方からの極値更新

該当なし

月最深積雪 最小値の更新

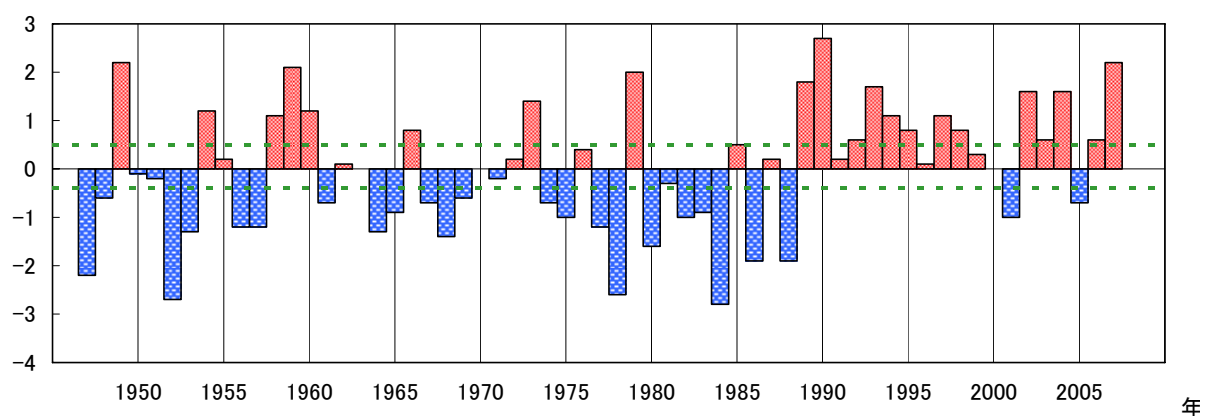
地点名	最深積雪 cm	これまでの最小 cm (西暦年)	開始年	平年値 cm
青森	37	38 (1993)	1961	111
むつ	16 =	16 (1973)	1961	66
秋田	2	5 (1959)	1890	37
石巻	1 =	1 (2000)	1961	13

注) これまで(昨冬まで)の最少(小)が「0cm」または「-」(現象なし)の場合は除く
 順位の更新はタイ記録を含んでいる。タイ記録は「=」で表す。
 平年値とは1971～2000年の30年間の値を平均したものである。

(8) 東北地方の2月平均気温平年差の経年変化

(°C)

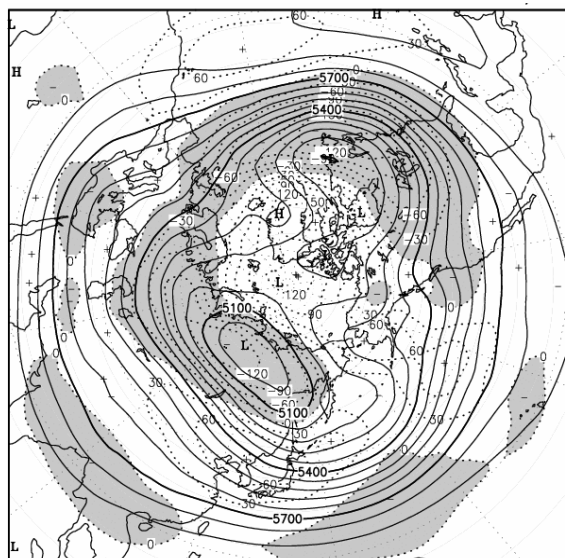
東北地方の2月平均気温平年差の経年変化(1946～2007年)



点線で挟まれた範囲が平年並。 $-0.4^{\circ}\text{C} \leq \text{平年並} \leq +0.5^{\circ}\text{C}$

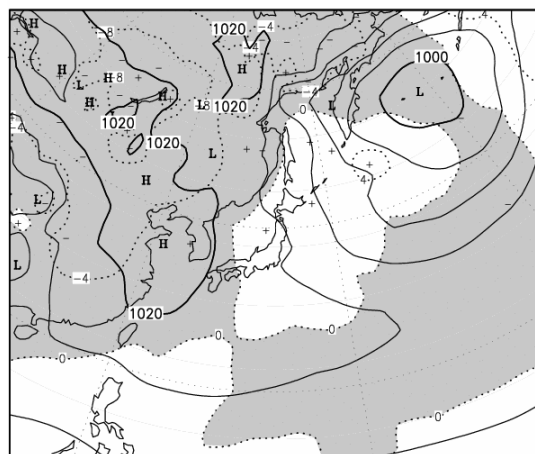
(9) 2007 年 2 月の循環場の特徴

極付近の寒気は2つに分裂し、寒気の内容心はシベリア方面と北米方面に位置し、極付近は正偏差となった。そして、チベットから日本、太平洋中部にかけては帯状の正偏差域が広がった(左図)。このため、日本付近への強い寒気の南下はほとんどなく、東北地方は記録的な高温、少雪となった。また、日本付近は西高東低の冬型の気圧配置が弱いことも加わり(右図)、東北日本海側では記録的な多照となった。



2007 年 2 月の平均 500hPa 高度

実線は等高度線：60m 毎、点線は偏差：30m 毎
陰影部は負偏差（寒気に対応）



2007 年 2 月の平均地上気圧

実線は等高度線：4hPa 毎、点線は偏差：4hPa 毎
陰影部は負偏差